

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	第8回加東市小中一貫教育研究会
開催日時	平成28年2月29日(月) 15時30分から16時20分まで
開催場所	加東市社公民館 2階 視聴覚室
議長の氏名 (委員長 浅野良一) 出席及び欠席委員の氏名 【出席委員】 12人 浅野良一委員 土肥貴雄委員 尾崎高弘委員 木村裕司委員 小林美穂委員 上月浩忠委員 岸本吉博委員 黒崎泰則委員 眞海秀成委員 佐々木正利委員 小林喜代治委員 石田和伸委員 【欠席委員】 1人 大野裕己委員	
説明のため出席した者の職氏名 【オブザーバー】 大島巧男教育委員長 藤本洋二教育委員長職務代行者 神崎芳美教育委員 浅川るり教育委員	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 教育長 藤本謙造 教育部長 堀内千穂 教育総務課 課長 大橋博英 同 副課長 柴崎俊之 同 主幹 山本幸平 学校教育課 課長 登光広 同 副課長 平川真也 同 主幹 藤原良二	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 【議題】 (1) 小中一貫教育の整備方針について (2) 最終報告(案)について	

【会議結果】

- (1) 資料①に基づき、事務局から説明を行いました。
- (2) 資料②に基づき、審議しました。

【会議の経過】

1 開会

2 報告

(1) 小中一貫教育の整備方針について

〔事務局説明（資料①）〕

3 協議

(1) 最終報告（案）について

(委員長)

それでは、今日のメーンの協議事項に入っていきたいと思います。

最終報告書（案）です。資料②になります。事務局からまた御説明いただけますでしょうか。

〔事務局説明（資料②）〕

(委員長)

それでは、今、事務局から最終報告（案）の、修正部分をメーンにお話をいただきました。

これにつきましていかがでしょうか。皆さん方が前回、あるいはその後で出していた意見を踏まえた内容というものでございました。

とりあえず今の段階では、修正部分について、言ったことと違うというようなことはどうもないようでございますね。もう少し見ていただいて、もしありましたら時間内をお願いしたいと思います。

それでは、事務局お願いします。

(事務局)

まず「はじめに」が1ページでございます。浅野委員長にお寄せいただきました内容につきまして、まとめさせていただいて記載をしました。これは委員長、御自身のお言葉でご説明いただけたらと思います。

(委員長)

「はじめに」でございますので、どのような経過でこの委員会が立ち上がって、どのような経過をもって最終報告書になったかというのが、大体前の6割ぐらいです。私が強調したかったのは、その後の2つの段落です。

1つは、教育委員会が必死にやっても小中一貫はうまくいかない。やはり教職員あるいは地域の皆さんや保護者の皆さん、そういう方々がベクトルを合わせてやるんだというふうにならないと、多分こういった大仕事というのはいくつかないと思います。それを1つ言いたかったわけですから、下から2つ目の段落の下から2行目です。すべての市民が小中一貫校の応援団です。応援団として最大限の支援、協力をやっていかないとよくいかないのではないかと。もっと前向きな言い方をすると、応援団になって前向きに取り組めば、成果が必ずや出るといような確信を持っている。それが1点目です。

それから2点目は、最後の段落でございます。2行目ですね。よそのまねをして、我々がそれを追従するのではない。ただ、兵庫県は今音頭をとって、別に小中

一貫についてはそれほど言及していません。ですから、我々が先行して、加東市ならではの、まさにこの加東市でうまくいくやり方、それを追求する。正解というものが何かあって、そこに近づくのではなくて、我々がクリエーションしていくということで、やりがいのあることではないかなというふうに思います。

是非、その応援団という言葉と、私の気持ちとしては加東市ならではの、この2つを特に強調したいということで、こういう文章でまとめさせていただきます。

「はじめに」については、以上です。

(委員長)

次に副委員長、「おわりに」をお願いします。

(副委員長)

まず、事務局を含めまして委員の皆様方に運営について御協力いただいて、ありがとうございますということです。

次に、最初はいろいろと不安なことが多くて、どうなっていくのかという思いがありました。視察や協議を重ねる中で理解が深まってきました。私自身も小中一貫教育というのがわかってきて、市民の方も同様にいろいろ御理解いただけたのではないかと考えております。

それで、ポイントは委員長もおっしゃいましたが、この事業の成否の鍵は保護者や子どもも含む住民と教職員、それと行政が一体になった小中一貫教育の学校づくりだと思いますということを書いております。研究会はこれで終わりますが、これから準備委員会を含めましていろいろやっていくわけで、まだ事業も途についたばかりだと思いますので、これからが非常に大変だと思います。我々はかなり高齢でもありますから、気にすることは無いのですが、次代を担う子どもたちのために良い学校づくりをしていく必要があるし、またそういう意味では応援団になっていこうと思っているというような思いを書いています。

それから最後になりますが、将来の子どもたちに歓迎されるような学校づくり、加東市の教育行政は非常に良い、本当によかったと思われるような学校づくりをしていくために、ちょっとした汗を流していきたいとは個人的に考えておりますし、皆様方にもこういうことをお願いしたいなという思いで、おわりの言葉を書かせていただきました。

以上でございます。

(委員長)

「はじめに」と「おわりに」は、我々が分担して書いたわけですが、そういうことだということをお酌み取りいただければというふうに思います。

それでは、先ほども少し出ましたように、9箇月にわたって8回の検討を行ってまいりました。最終的にこういう最終報告書にまとめたわけですので、これにつきましての御意見でもいいですし、あるいはコメント、感想でも結構ですので、順番に御発言をいただいて、この報告書でよいということであれば、その旨も一言添えていただければというふうに思います。

(委員)

一番大事なことは加東市にとって、また住民にとって、教職員の皆さんにとって、こういうふうにしたということですね。だから、これで結構だと思いますが、今もお話の中にありましたように、住民の皆さんの協力を得ることが一番だと思います。そしてまた、子どもたちが本当に喜んで、生き生きと活動してくれるという夢や希望を持たれる施設の設営ですね。

それから、もう一つ大事なことは、他所のまねをしないということですね。加東市に合った、この地域に合った教育現場をつくるということで、本当にどこにも負けない、さすが加東市だというような学校をつくっていきたいと思います。この計

画案はこれからが大変だと思いますが、大筋がまとまっておりますので、また皆様の協力を得て、若い人の力も借りながら、また知恵も借りながらやっていってほしいと思います。

(委員)

私もこの案でよいと思いますが、1つ思うことで、もちろん住民の協力なども必要ですが、実際にこの小中一貫教育を推し進めていくのは学校の先生だと思えます。先生方が気持ちを1つにして取り組めるような体制づくりと、それを支援できる教育委員会の体制づくりというのが大事だと思います。

特に管理職がかなりしんどいと思います。管理職を支えるのは教育委員会の役割ではないかというふうに思いますので、その辺しっかりと支援体制を築いていただきたい。

小野市が来年度から小中一貫教育を全市でやるということで、専門の何か役職の人をつけるというのが新聞に載っておりましたが、小野市よりももっと先に行った小中一貫教育を目指していますので、十分な支援ができる体制を是非つくっていただけたらと思います。

(委員)

今日の話にもありましたように、願いや思いが反映される取組を地域の皆さんが期待されていると思います。

そんな中で誰もが人任せにせず、貪欲に妥協を許さずに取り組んでいけば、いろいろ知恵は出てくると思いますので、そういう取組になればいいのにと思いました。

人それぞれに課題はお持ちだと思いますが、そういう課題について、この機会がそういうことについて話ができる絶好の機会であろうと思います。少子・高齢化等でいろいろと地域の中で課題がたくさん出てくるのが想定される中で、この取組が本当に絶好の機会になればと思います。

(委員長)

それでは、この案で一応賛同いただけますか。

(委員)

はい。

(委員)

6月から8回、視察や、いろいろと意見交換をさせていただいて、地域、学校、家庭、オール加東でやっていけば、小中一貫は必ず成功するのではないだろうかという事は、回を重ねるごとに自信も深めていきましたし、それから本当にいい学校ができていくんだなど、今、実感しております。第1校目となる東条の小中一貫校に関する準備が、もう平成28年度から始まっていきますので、それに続く社、滝野が成功していくためにも、東条の小中一貫校開校準備委員会で、いろいろな人の意見が取り込めるような形でしっかりした組織をつくっていただいと思っております。

実際に最近少子化が進んでおまして、兵庫県だけでなく全国的に見ても人口がどんどん減っておりますので、私たちのふるさと加東市がモデルケースになるような、本当にすばらしい学校をつくることによって、逆に近隣から若い世代のお父さん、お母さんがどんどん集まって、加東市だけは人口は増えていると言われるようなまちづくりの一つとして、この小中一貫校がモデルになるような形で進んでいってくれたらすごくいいなと個人的に思っております。

(委員)

この最終報告書の案は、これでいいと思います。

学校の体制を変えてまでということ、田舎のほうでは変革というのはあまり喜

ばれないのですが、やるという方針、目標が決まったので、皆さんが目標に向かって一致団結することをお願いするだけだと思います。

(委員)

最終報告(案)ということで、いいものができたなというふうに思っています。

子どもが減っていく中で、一部の大人というか、子どもを持っている親だけの取組ではなくて、地域を挙げたまちおこしという部分の小中一貫になっていければというふうに考えています。小野の河合中学校、河合小学校が小中一貫の前に乗り入れ授業であるとか、中学校の教師が小学校に行かれたり、小学校の教師が中学校へ行かれたりということが準備の段階でされているので、中学校から小学校へ行くときに時間的な余裕を持っているのかを質問しましたら、空き時間10分で行くという話も耳にしました。東条でする場合も太い道を通っていくことになるのかなという想像もできます。具体的に人員が必要ではないかと思しますので、またよろしくお願ひします。

(委員)

私もこの案で賛成です。

地域の方にとっても、保護者の皆さんにとっても、それから学校教職員にとっても、一番大切なのは子どもたちです。子どもたちが元気にいろいろなことを学んで生き生きと過ごしてくれる、そういう学校をつくりたいという思いはあると思っています。だから、同じ方向を見て、子どもたちのために頑張っていけたらなということをお願ひします。

一からつくるのはすごく大変なので、計画的に今まで見てきた先進校の良いところ、一体型の良いところをまねしながら、ただし加東市らしさを残して行って、今までにない一番良い学校ができていったらいいなというふうに思っています。

(委員)

最終報告ができましたけど、理念は本当にいいものができたなと思います。今からお願いという形になり、本当に教育委員会ばかりお願いして申し訳ないですが、教職員の中で温度差はまだまだあると思いますので、この理念を教職員への理解につなげられるようにしていただけたらなということが1つです。

それから、政令都市であったり、先進校のよいところを取り入れたらいいとは思いますが、ふるさと加東というようなネーミングがありますように、加東市独自の取組でいいと思いますので、よいものができたらと思います。

準備委員会で少し気になるところがありますので、それも1つお願いなんですけど、教育内容を決めるのと教職員配置計画が同じ期間で進められるということで、計画を立てておられましたので、見切り発進だけないようにしていただけたらと思います。教職員の数が決まらないのに教育内容を決めてしまうと、後からこの人数でこれだけのことをというのもなかなかしにくいところがあるでしょうし、開校記念行事、研究授業、研究会であるとか、頭でっかちになってしまってもいけないので、あくまでもそういう条件整備の中で何ができるかというような取組というのをお願いすることが、多忙化の解消にもつながるのかなと思いますので、その点をよろしくお願ひしたいと思ひます。

(委員)

最終報告(案)については、特に異論はありません。これでいいと思ひます。

感想も含めて2点、話をしたいと思ひます。

1点は、15ページに書いてある、めざす小中一貫教育について、何人かの方も言われましたが、平成28年度から小中の一貫教育の試行が始まりますが、現場としましてはできるだけ早くこういうふうなことを試行として考えているということが分かればなと思ひます。

また、平成30年度から相互乗り入れの授業を部分実施ということが書いてありますが、これについては非常に重要なことだと思います。特に一貫校で中期においては、中から小へ、あるいは小から中へということも考えられると思いますので、教員が中学校から小学校へという一方通行ではなくて、小学校の教員で専門性のある方がおられますので、是非小学校から中へとすることが一貫校になったときに、お互いが知り合って、よりよい教育がスムーズにスタートできるのではないかというふうなことも考えられますので、是非とも前倒ししてでもよく準備をして、相互の乗り入れができますようお願いしたいというのが1点でございます。

それから、ふるさとを愛しということが書いてありまして、委員長も言われましたが、加東市ならではのいうふうなことを思います。ふるさとを愛しということは、個人的な意見ですが、グローバル化ということで、加東市から様々な能力を身につけて、日本、そして世界へ羽ばたいていくというふうな生徒を育成するというのも大切だと思いますが、ふるさとを愛しということですので、加東市で学んでよかった、加東市で将来働きたいというふうな子どもを育てるというのも、もう一方では大切かと思えます。世界へという子どももあり、是非加東市で将来にわたってここに住み、働くという子どもも育成したいと、私個人としては思っております。そういう意味で、ふるさとを愛しというふうなことをお願いできたらと思います。

(委員)

結論としまして、良い研究会の報告ができたと思っています。

私は、特に先ほど委員から出ていましたが、ハード面とソフト面、これがうまくマッチしないと、子どもにとって、市民にとって、保護者、地域にとって、よかつたなという学校になり得ないので、その辺も含めての提言がいい形でできたと思っています。

私も、感想になります。初めはたいへん不安な部分がたくさんありましたが、いろいろな御意見を聞いたり、見たりしながら、希望がだんだん膨らんできました。皆さん方もそうでないかなと思っています。また、教職員も含めて、まだ、希望が膨らみ切っていない方、まだつぼみかなという人もあると思います。

この提言の中に、3つの柱があったと思いますが、それぞれの果たすべき役割をよく再確認しながら進めていく必要があると思います。そのために準備委員会や組織づくりというものがあるのですが、一つひとつ先進校の良いところを取り入れながら、委員長が最初におっしゃっていましたが加東市ならではの計画、そして開校ができたと思います。よい研究報告書ができたと思っています。

(委員長)

今一通りお話を伺いました。おっしゃっていることを私なりにまとめますと、幾つかになると思います。

1つはマッチングです。理想と現実のマッチングです。良いことを言っても、足元がしっかりしていないとだめですね。

それと、ハードとソフトのマッチングです。良いものができても中身が寂しければ悪くなり、また、中身がよくても側がうまくいかないと、中身もだんだん悪くなります。

それと、そこでする教育活動とそこに配置できる教育資源、特に教職員のマッチングです。やはり無理があれば、なかなか最初は気持ちが高揚していますので、うまくいくかもしれませんが、長持ちしない。だから1つはそのマッチングというところが皆さん、おっしゃったことかなと思います。

それから2点目は、一体型の小中一貫校ができてくるわけですが、その前の試行段階が重要だというふうに、皆さんおっしゃったと思います。だから、試行段階で十分にいろいろな問題点もピックアップしながら、あるいは実際進めるときの支援

を教育委員会としてきちんとやりながら、そしてグッドスタートに結びつけていく。だから、スタートのために試行をないがしろにしてはうまくいかないぞ、というような意見があったと思います。

それから3点目は、これも皆さんがおっしゃった、やはりオール加東でやるのが、良い学校をつくるポイントだと思います。

それに関連して4点目として、小中の学校を一つにしてやっていくということは、市民が皆でお話できる話題ではないかという感じがいたします。それぞれのお立場の方が、それぞれの議論はできますが、子どもたちの学校をどうするかというのは、老若男女、子どもがもういない、あるいは卒業した人でも、皆が意見を言い合う。これは非常にこの加東市にとって、この何年間、十何年間、重要な期間になるような気がいたします。学校を通じて市民の皆さんが、いろいろ議論をし、しかも前向きな議論をするということですので、非常にチャンスかなという気がしました。

そして、最後5点目でございますが、下世話な話をいたしますと、施設一体型の小中一貫校を3つつくるというのは、非常に大きな投資です。だから、加東市の何十年かの中で、多分一番まとまった投資ではないかという気がします。それも先ほど委員がおっしゃったように、子どもたちの未来に対する投資です。悔いがないように、是非取り組んでいきたいという皆さんのお気持ちではなかったかなというふうに思います。

以上、皆さん方から一通り御意見をいただきました。そして、要望等もここに反映するものはあまりないというふうな形で、この案につきましては、この原案どおり進めていきたいと思いますが、皆さん、よろしゅうございますか。

〔異議なし〕

(委員長)

また御意見や要望だったり、支援などにつきましては、随時教育委員会のほうで御配慮いただきたいというふうに思います。

それでは、今回この最終報告書の協議、ここまでいたしましたので、一旦お返ししたいと思います。

また、軽微な修正がありましたら、私と副委員長に御一任をいただいて、こちらで修正させていただくことにしたいと思います。これもよろしゅうございますか。

〔異議なし〕

○浅野委員長

それでは、これをもって協議を一旦終了いたしまして、議事を事務局にお返ししたいと思います。

4 事務連絡

5 閉会

【資料名】

資料① 加東市における小中一貫校の整備方針

資料② 加東市小中一貫教育研究会最終報告（案）

平成28年4月4日